



Title	完成間近の難波駅
Author(s)	百々, 勝彦
Citation	makoto. 1980, 31, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86101
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

完成間近の難波駅

南海電気鉄道難波駅長

百々勝彦

五〇〇ルクスの照明に照らし出され一番電車がホームに静かに座わっている。(ヘルメットに作業衣姿の人々が、三々五々集まってくる、………テー

ブカットがなされた。湧き上がる万雷の拍手とバンザイの声、………一番電車は、暗やみの中へ、静かに吸い込まれてゆく。8年の長きにわたって続けられてきた難波駅改造整備建設工事が、今完成しようとしている。

難波駅改造整備建設工事は、

昭和四十七年五月から着手され、本年十一月をもって完成いたしますがこれまでの工事の経過と今後の計画等について、簡単に紹介させていただきます。当改造計画は、将来激増する乗降客(昭和六〇年には、五〇万人)に十分な対応が、できるよう6両運転が限界であった旧来の駅施設を、根本的に改良し一〇両編成列車の運転を可能とすることにより、輸送力を増強することともに、関連する商業施設

を含め、名実ともに大阪ミナミのターミナルとしてふさわしい、新難波駅に生まれ変わらせるべく、昭和四五年から、一大プロジェクトとして計画され、

昭和四十七年五月から着手したものである。改造工事の概要は、

改造前の高架駅を撤去し、その跡地に地上3階地下3階のターミナルビルを新設し、その用途を

4階 駐車場

3階 プラットホームおよび

コンコース

2階 中央コンコースおよび

店舗

1階 地下2階 店舗

地下3階 荷捌き倉庫その他として駅周辺の開発を行うものである。

工事は、営業運転を行いながら漸次、新施設に切替えるため、ターミナルビルを東西に3分割し、躯体および鉄道施設は、3期に分けて施工し、店舗については2回に分けてオープンすることとした。

現在までの歩みは、昭和四十九年一〇月第一期工事として3階に南海線新ホーム(6両3線)

完成、五一年一二月第二期工事として高野線新ホーム(8両3

線)および3階北口が完成、翌五二年十一月2階中央口コン

コースの開設およびホームと中央口を結ぶ階段の設備、本年三月二〇日2階中央口の完成および南口の開設、

となっている。

この間五三年十一月には、「なんばCITY」第一期工事完成に伴う一次店舗オープン、さらに本年三月二〇日には第二期工事が完成し「なんばCITY」は全館オープンし、一大ショッピングセンターとして、定着しつつある。

今後の計画としては、十一月には3期工事が完成し、これによりプラットホームは一〇両5線8両3線となるほか3階コンコースが拡充され駅施設も完成するとともに、五六年には予定

されている一〇両運転に対応できることになる。

駅は有機的に結ばれた「なんばCITY」の登場に伴い輸送力の増強のための「ホーム延伸、拡幅」のみならず設備的にも、改善されており、以下簡単に紹介します。

1. 防災システム

防災については建築面で既設南海ビルとの接続部に地下一階から一〇〇㎡の外部吹抜空間を有するほか、瞬時に最も安全な避難適切な処置を施すことができるようにコンピューターを利用した集中管理システムを採用した。

2. 真空ゴミ輸送システム

広大な生活環境から発生するゴミの処理について粉塵、汚水、臭気等に留意してゴミ投入口から、ゴミ処理場まで人目に触れることなく、自動的にゴミが処理されてゆくシステムを採用した。

3. 空調設備

従来真夏にはホームは暑気によってごめいわくをおかけしてきたが2階3階のコンコースに空調を施すとともに車両の抵抗器から発生する熱をホーム下に設けた排気口から吸引することにより真夏の不快感を若干でも

緩和する設備である。

4. 駅務機器

当駅の駅務は昭和五三年から自動化されていますが、3階コンコース完成に伴い、将来の増も見込み、券売機については千円札用を主体に八台新設し全部で四〇台となるほか改札機も配置を変更するほか五台を増強して全部で四八台とします。

紙面の都合により略しますがその他PTC(列車運行管理システム)の導入、自動行先案内表示装置の本格設備、中央口コンコース内へのエスカレーター(九基)の設備等が本年十一月の完成時には、実施される予定である。

最後に駅改造工事は十一月をもって完了しますが、改造前に比べ面積設備環境等が一変しており、これらをいかに維持管理し機能を向上させ、又それにマッチした人的サービスを確保し充実させてゆくことが今後の課題であると考えております。

